

# 有村友宏君 奥様からのお手紙

有村 尚代

はじめまして、有村の家内でございます。

この度はメッセージとDVDのお送り下さいまして誠にありがとうございます。何だろつと中身を取り出し、びっくりに致しました。思いもかけないものを手にし、涙があふれ、胸いっぱいになり、読み続けることができます、しばらく抱きしめておりました。

DVDも見せて頂きました。素晴らしいものを作って頂いて、お礼の言葉もありません。今、この手紙を書いておりまして涙があふれ、思うようにペンが進みません。

夫は、良いお仲間を持っていましたね。一人だけ先に抜け出るなんて・・・もつとつながっていたかったことでしょう。お別れも告げずに逝きましたのに、皆様の温かい想いやお言葉に何と申し上げてよいやら・・・本当にありがとうございます。

一昨年（平成二十四年）四月、膵ガンを宣告され（お友達には別名を言っていたかも知れませんが）時たまの短い入院の他は、家で普通に生活しておりました。

昨年（平成二十五年）一月、通っていた教会会報誌に所感を書いています。余計なことかなと思いつつ抜粋致しました。お読み頂くと解りますが、野球の打率になぞらえ、二十%にかける彼の気持ちを思うとせつなくなります。この後、一月末で抗がん剤をやめ、ペイン・コントロールのみになりましたから。もっともっと支えられなかったか後悔ばかりです。

同期会をいつも楽しみにしておりました。記念樹のお世話をしたことが計らずも夫への想い出につながり、メッセージ・DVDと共に私共にとり、何よりの慰めとなります。夫は幸せです。

お友達へ呼びかけ、早速DVDを作ってくださいました大石様、お心遣いに深く感謝申し上げます。何とお礼を申し上げてよいかわかりません。

メッセージをお寄せ下さった皆様方へ、おついでの際にでも私の心からの感謝の気持ちをお伝え頂ければと存じます。

永い、永い間の御友情に心からお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

八期会がいつまでも発展し続け、皆様も健やかに末長く御活躍されますようお祈り申し上げます。

暑さ厳しい折柄、どうぞお身体大切にお過ごし下さいませ。



人生はこれからです！  
かがやく未来が待っている。

仕込みの仕事、有村友宏くん頑張る。  
プロの庭師顔負けです。



## 《有村友宏くんに寄せられた仲間からのメッセージ》

一〇一三年七月十日、十一時 大石慶一 [koshi3@gmail.com](mailto:koshi3@gmail.com) より八期メル友に発信

●八期会の皆様訃報をお知らせいたします。三組の有村友宏くんが亡くなりました。五年前の五十周年記念に植木屋さんのような格好で同期の桜を手慣れたしぐさで植えつける姿が目に見えて来ます。八期の誇りの星が又ひとつ消えました。 大石

●彼と大石くんと私の三人で卒業五十周年記念同窓会の前日、母校に桜を記念植樹するための仮植えをしたことが一番大きな思い出になってしまいました。有村さんが木の選定から、仮植えまでほとんど一人やってくれましたね。ほんとに残念です。もう一つの思い出は、家内が二つ入っている合唱団の中の一つシャランテ・メールの演奏会がザビエル教会で二回あったのですが、その二回とも彼も聴きにきていて、私が二回目のときに「おまんさあは、クリスチャンな」と聞いたとき、照れくさそうに「あたいは、隠れクリスチャンを」と答えてくれたことです。彼の人柄がにじみ出ているなあと思っただけです。 隈元

●残念です！送られたお手に添えたメッセージをなつかしく思い出します。ー「前略：写真はありがとうございます。自家栽培のイモを堀田（？）ーばかりなので送ります。種イモになるでしょう。赤のは、鳴門キントン、白のは、くり小金（指宿産）もう一つの種の方は花オクラ。花をしょうゆなどで食べる。甘いのでアリがきます。咲いたらすぐ収穫がいいでしょう。ーでは、お元気で。ありむらーと、ユーモアを書いて送って下さったり、館山の二階の畳の部屋、時間も無くて貴方が入らなかつた部屋に有村君の手造りの軽石を彫って花瓶になっているのが飾ってあったのに、入ったらキツと言ったのに。始良の陶芸家一竹之内氏の作品と並べて形見になった。何て残念で悲しいです。身体に気をつけて暮らしましょう。 堀田 昌子

●有村君の死、残念で悲しく、信じられない気持ちです。毎年会っていてあんなに元気だったのに、無常を感じます。まだ気持ちの整理がつかません。 是石

●今朝の新聞に有村友宏君が七日、午前七時に死去されたとの死亡広告が掲載されています。葬儀は昨日、家族だけで済まされているようです。桜の植樹でお世話になったことが思い出されます。 森 繁

●メール拝見いたしました。理事長より・・・「有村さんの訃報は、キリスト教会の関係者から聞いておりました。通夜にはどうしても参列することができませんでしたので、代理として娘（カトリック信者）を参列させました」ご連絡ありがとうございます。 社会福祉法人白鳩会 理事長 中村 隆重

●有村の逝去をお知らせいただきありがとうございます。彼の思い出をのべる。彼は玉龍三組のとき、オイにとって最も気の合う相棒であった。有村は男として信用できる実によく漢であった。己を誇ることもなく、いぶし銀という語は有村のために作られたような気がする。防大一年のとき、彼が東京の家にもやってきた。真っ白い制服姿が余りにもりりしく、まばゆいので「おい、有村、オイも防大生の制服姿で写真を撮りたいので、ちょっと服を脱げ」「よし、わかった」と、にわかインチキ防大生となり写真を撮った。残念ながらその写真は残っていない。次に会ったのは、城山で行われた玉龍卒五十周年記念会場と、それに続く屋久島旅行であった。城山では「オイ、有村、ワイは相変わらず野球のスタルヒン投手に似ている。いや、スタルヒンではない。ヒンタを見ると、貴塚がついてギリシャの哲学者、ありストテ

リスにそっくりじゃ。これからワイのことをありストテリスと呼ぶことにする」「おい、宮元、ワイは五十年前の玉龍のときと全然変わっておらん。ワイは・・・」。屋久島でも部屋割りは彼と同室であった。玉龍のときと同じく楽しい一時を過ごすことができた。好漢の世を去ったが、人徳によりあの世でも大いに welcome されていることだろう。有村、この世での長い宮仕えご苦労さんでした。いずれの日にか相まみえん。好漢有村！ さらばじゃ。 宮元 雄厚

●大石さんおはようございます。有村さんのご逝去の件、連絡ありがとうございます。私はあんまり面識なかったですが、五十周年のときの玉龍高での桜の植樹の折中心になり、活動されていたことが思い出として残っています。ご冥福をお祈りしたいと思います。 木場 祥雄

●連絡ありがとうございます。小中高と一緒に過ごしたので・・・「友ちゃん」と呼んでました。合掌！ー！ 村上 久幸

●大石様、ご連絡感謝です。記念の桜、ほんとに記念の桜になってしまいました。我々も七十代、予期せぬ終も考える年かも知れません。同期生や以前の職場の同僚等と、身近な方の葬儀参列が多くなってきました。浜崎会長、大石幹事様、元気で長生き、期待します。 長崎県諫早市 森永

●級友、有村君の訃報速報、ありがとうございます。お互い予期される年代になったとは言え、同期の桜が欠けて行く知らせは、驚きと共に淋しくつらいです。 稲森

●連絡ありがとうございます。有村友宏さんが死去されたとのこと、びっくりしています。昨年の同期会でお会いした時、実家に帰ってきたら、清水小の横だから「寄ってよ」と話したところでした。物事に対してのみこみが早く、また明るい方で、ほんとに残念です。心よりお悔やみ申し上げます。 木佐貴

●只今、選挙の投票に会場である玉龍高校から帰ってきたばかりです。投票の序になってしまいました。五十年記念樹の桜の木の前にはしばし佇んでおりました。七日夜、小森芳雄君から急ぎよの電話があり、よもやとの直感が残念ながら真実でした。想えば、二年に一回受けている、昨年六月二十日（水）の大腸ファイバー検査のため、鹿児島医療センターの受診に行っていたとき、彼が奥様と一緒に待合の椅子にいた。その時、前立腺がんで入院していた、今日はその予後の検査にきている。しばらくして診察室に呼ばれたが、数分で出てきて問題なしとの事。あの時、ご夫婦とも明るい話しぶりであったのに、そして、小森芳雄から前立腺で入院するからと手術の様子等についての問い合わせがあったよ。と言っていた。そして、彼が出てきたら一杯やろつとの話で別れた。十二月の忘年会の時、酒こそ口にしながら近づくにいなから、親しく接することが出来なかつたことに悔やみが残り、同年代と言うこともあるかもしれないが、普通の時の彼の姿が顔をよぎる毎日である。今日の記念樹詣で、深甚な思いで弔問の意に代えさせてもらおうと思います。 永野 敦士

●今日、角さんからメールを見た？と云われ、又し振りにパソコンを開きました。本当に、残念な気持ちです。そして、さびしい気持ちになりました。友宏さんは存在感のある方でした。母校の桜の木と共に、生涯忘れぬことはないでしょう。ご冥福を祈ります。 茅ヶ崎市 伊藤 工子